

ネアカヨシヤンマ

Aeschnophlebia anisoptera Selys
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内で安定的に本種が確認できる生息域は嶺北地方の1地域のみ。更に外来種侵入、植生遷移等により生息環境悪化が懸念される。

種の特徴

体長75～88mm。翅の付け根が橙色、腹部にくびれがない寸胴の大型のヤンマ。6～9月に出現。空間に網を張る造網性のクモを狩り、捕食する習性がある。幼虫はヤンマ科で唯一、腹部第8～9節に背棘がある。丘陵地の樹林に囲まれた抽水植物の繁茂する浅い湿地に生息。

分 布

本州、四国、九州に分布するが局所的である。県内ではこれまで福井市、あわら市、敦賀市、小浜市、若狭町で記録があり、今回は嶺北1点、嶺南1地点で確認されている。

生息を脅かす要因

生息範囲が限られているうえ、ヨシの過繁茂、植生遷移の進行、さらにアメリカザリガニの侵入による直接的捕食が追い打ちをかけており、植生管理、アメリカザリガニ駆除の対策が必要である。

参考文献 尾園ら (2012)、齊藤 (2005)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○		○				○

カトリヤンマ

Gynacantha japonica Bartenef
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で近年生息地が複数箇所確認されているが、現存する産地が非常に限られ、安定して個体が確認できるのは1か所しかない。

種の特徴

体長66～77mm。複眼が大きく腹部が強くとびれた細身の中形のヤンマ。8～11月に出現。ヤンマ科の多くが幼虫で越冬するが、本種は卵で越冬し孵化後3～4ヶ月で急速に成長し成虫になる。平地～丘陵地の樹林内、林縁の湿地、浅い水溜りに生息。

分 布

本州、四国、九州に分布。今回、県内では敦賀市中池見湿地、嶺北地方で確認されている。

生息を脅かす要因

産地が限られているうえアメリカザリガニの生息水域周辺への拡大、侵入また植生遷移が進んでおり植生管理、アメリカザリガニの駆除の対策が必要である。

参考文献 尾園ら (2012)、和田 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○		○			○				○	○	

マイコアカネ

Sympetrum kunkeli (Selys)
トンボ目・トンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息地の減少。

種の特徴

体長29～40mmのアカトンボ。成熟個体は額が淡い青色ないし緑色となる。平地の抽水植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は7～11月に出現する。

分 布

国内では北海道から九州、佐渡島、奄岐等の離島に分布する。県内では、かつて安定した生息地であった北潟湖等で近年激減し、確実に見られる生息地がほとんどない状況である。

生息を脅かす要因

ブラックバスやアメリカザリガニ等の外来種の増加が脅威となる。残存生息地の調査が急務である。

参考文献 尾園ら (2013)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○					○		○				○